

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和6年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	①ふるさと教育による南あわじ市「学ぶ楽しさ日本一」プロジェクト					新・継・拡の別	継続	補・単の別	補	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち				
事業の目的	学校・家庭・地域が連携しながら学ぶ楽しさを感じ、追及する教育を推進することで、子どもたちの知識・技能や思考力・判断力・表現力を伸ばし、人と関わる力・やり抜く力・学びに向かう力・人間性を培っていく。					II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち										
						III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと)	○	IV 子育てしやすいまち								
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ①子ども		<input checked="" type="checkbox"/> ③子育て世代							達成状況	B	やや遅れが生じており、取り組みを加速化させる必要がある				
事業の概要	<p>【概要】</p> <p>先進的な経験や地域との関わりを通じてふるさと意識を醸成する「アフタースクール」、伝統文化を生かした「コアカリキュラム」、日本を代表するアスリート等との交流「夢プロジェクト」、夏休みを活用したサマースクール「山の学園」などを実施するとともに、市内離島への「離島留学制度」の構築を図る。</p>										【コアカリキュラム】					
KPI	<p>KPI① 社会増（10歳～19歳） KPI② アフタースクール参加人数に占める学童対象外の子どもの比率 KPI③ 授業実施前後に行うアンケートでのふるさとを愛する児童生徒の割合の伸び率</p>					令和6年度実績に対する主管課 自己評価	<p>協働的に学ぶ力や主体的に取り組む力の育成に向けて、ドキュメンテーションによるエピソード共有が行われ、めざす子どもの姿の共通理解が進んだ。中学3年では、地域に学びを還元しフィードバックを得る学びの循環を意識したカリキュラム改善が図られた。また、教材や授業づくりにおいて、心情的な「身近さ」を意識する教員が増え、児童生徒の関心を高める工夫も進んでいる。</p>					【スクールチャレンジ】				
KPI① (下段実績)	現状 -28人	R 2 年度 -28人	R 3 年度 -21人	R 4 年度 -14人	R 5 年度 7人	R 6 年度 ±0人	<p>各校において学校評価などを基に出てきた課題を焦点化し、研究テーマを設定して事業計画を立て、テーマ設定の意図などを全教職員で共有し、解決に向けて取り組むことができた。各校の校内授業研究会に市内の他の学校からも参加できる仕組みを活用し、効果的な取組について共有するとともに、校務支援システムの掲示板やあんしんネット等を活用し、学校教育の情報発信を行った。また、中間発表会を実施し、各校校長が自校の取組について説明する機会を設定した。</p>					【離島留学】				
KPI② (下段実績)	30% —	32% 19.8%	35% 12.6%	38% 22.7%	41% 18.3%	45% 26.7%	<p>淡路島外から沼島又は南あわじ市内に移住して通学する離島留学者を受け入れるため、離島留学体験の提供のほか、通学費用の助成を実施した。令和6年度は離島留学者の受け入れはなかったものの、問合せ件数は前年度の2倍となった。(R6年度:22件、R5年度:11件)</p>					【アフタースクール】				
KPI③ (下段実績)	20% —	30% 37%	40% 44%	50% 43%	60% 73%	70% 82%	<p>市内15校区ある小学校のうち11カ所で実施。開設校区を2カ所増やし、「まちの先生」といった地域の人たちや企業等の協力によって、スポーツや遊びを通じた多種多様な体験プログラムを提供することができた。</p>					【夢プロジェクト】				
事業期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度					<p>小学校4校、中学校3校、少年野球教室を1回開催(一部ふるさと納税あり)の計8回の児童生徒向けに講演・実技指導等を実施し、多くの児童生徒にスポーツ・文化活動への向上心を育むことができた。</p>										
総事業費(一般財源)	175,431 千円 (89,382 千円)															
事業費内訳	年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	総合戦略検証委員会による外部評価									
	事業費	12,613	29,560	36,930	47,375	48,953										
取組実績及び事業費(令和6年度事業費)	特定財源	6,306	14,780	17,465	22,022	25,476	総合戦略検証委員会による外部評価									
	一般財源	6,307	14,780	19,465	25,353	23,477										
	<p>【ふるさと創造学習(コアカリキュラム)】総事業費:1,757千円 淡路人形浄瑠璃を核にした小中学校9年間の教育実践に取り組むもの。</p> <p>【スクールチャレンジ】総事業費:4,684千円 各学校がそれぞれの課題や特色に応じて、主体的に独自の切り口で課題解決に取り組むもの。</p> <p>【離島留学】総事業費:11,278千円 離島留学を推進するため、沼島での特色ある教育と指導体制を図るもの。</p> <p>【学ぶ楽しさ支援センター】総事業費:980千円 「学ぶ楽しさ日本一」を実現するため、学校教育の充実と、様々な課題を抱える子どもたちの学びを保障する「学ぶ楽しさ支援センター」の施設運営</p> <p>【アフタースクール事業】総事業費:27,331千円 放課後にすべての児童を対象に、地域人材等を活用し、多種多様な体験プログラムを提供するもの。</p> <p>【夢プロジェクト事業】総事業費:2,923千円 著名なスポーツ選手・文化人を講師として招き、スポーツや文化の魅力、夢をもつ大切さを学ぶ機会を提供する。</p>						<p>さらに取り組みを加速化させていただきたい。</p>									
新型交付金の対象区分		<p>①先駆性のある取り組み</p> <p>②既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み</p>					今後の方針									
	○	<p>③先駆的事例・優良事業の横展開</p>														
担当部署等	教育委員会	学校教育課	担当者:	瓶井 彰人	内線:	2224										

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和6年度決算】

【地方創生推進交付金 事業実施評価書】

事業名	②はじまりの島淡路島観光推進プロジェクト	新・継・拡の別	新規	補・単の別	単	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち																											
事業の目的								II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち																											
兵庫県及び淡路島3市、民間団体等が密接に連携・協力し、観光資源の磨き上げを行うことにより、交流人口の拡大や、淡路島の「食」・「モノ」のブランド化等による農林水産業や商工業の振興、新たな雇用創出、UJターンの増加などを促進することで、人口減少・超高齢化に対応する地域の持続的成長を目指す。							○	III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと)																											
対象者(ターゲット)		⑥地域	⑦来訪者	IV 子育てしやすいまち																															
事業の概要	【概要】 淡路島観光戦略会議の設置や淡路島総合観光戦略の策定のほか、大規模イベントと連携した誘客プロモーション等を実施する。 【戦略的な観光推進体制の整備】、【淡路島総合観光戦略の策定】、【大阪・関西万博等連携推進事業】、【ヘルスツーリズム推進事業】、【サイクリングアイランド淡路の推進】、【「国生みの島」淡路島日本遺産の推進】						達成状況	A 目標達成に向けて概ね順調																											
KPI	KPI① 新たに追加した観光関連のコンテンツ・旅行商品・サービス数（増加件数） KPI② SNS・ホームページアクセス数（増加件数） KPI③ 観光客満足度（増加割合） KPI④ 観光入込客数					令和6年度実績に対する主管課 自己評価	【事業実績】 戦略的な観光推進体制の整備として、観光施設や宿泊施設等の従事者を対象に観光人材育成セミナーの開催した他、関西圏において発信力の高いメディアを活用して1年間月3本平均で定期的な情報発信を行った。 大阪・関西万博連携事業として、香港・台湾向けのインフルエンサーのFAMトリップやタイ・バンコク旅行会社商談会へ参加し、現地旅行会社へのセールスコール等を行った。																												
KPI① (下段実績)	現状 0件	R 4年度 3件	R 5年度 5件	R 6年度 5件	R 7年度 7件		【自己評価】 淡路島の食を支える農漁業、畜産業、伝統産業や歴史・文化等のポテンシャルを活かした「淡路島ならではの本物体験コンテンツ」を磨き上げ充実させ、観光協会HPからオンライン予約できる仕組みに加え、英語版サイトからもオンライン予約ができるよう、インバウンド誘客に向けた取り組みを実施した。現在のコンテンツラインナップは82件(令和7年3月末、洲本市14件、南あわじ市36件、淡路市29件、複数市に渡るもの3件)																												
KPI② (下段実績)	2,276,329件 2,276,329件	50,000件 1,896,985	75,000件 403,276	75,000件 -483,249	100,000件																														
KPI③ (下段実績)	90.10% 90.10%	0.40% 1.80%	0.50% 0.80%	0.50% -2.30%	1.00%																														
KPI④ (下段実績)	8,024千人 8,024千人	400千人 1,545千人	600千人 517千人	700千人	750千人																														
事業期間	令和4年度～令和8年度																																		
総事業費(一般財源)	35,000千円 (17,500千円)																																		
事業費内訳	年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	総合戦略検証委員会による外部評価																												
事業費	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000																														
取組実績及び事業費(令和6年度事業費)	特定財源	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500		現在の観光客入れ込みの8割は京阪神からの日帰りが多く、これを宿泊に結び付ける必要がある。神戸空港に大韓航空が就航しているので、淡路島と神戸市が連携した施策など広域で取り組みを進めていただきたい。 観光をもっと広域で考え、食も含めたコンテンツのブランド化を図る必要がある。																											
	一般財源	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500																													
はじまりの島淡路島観光推進プロジェクト																																			
<table border="1"> <tr><td></td><td>淡路全体</td><td>うち淡路各市</td><td>うち兵庫県</td></tr> <tr><td>戦略的な観光推進体制の整備</td><td>10,654</td><td>2,302</td><td>3,748</td></tr> <tr><td>大阪・関西万博等連携推進事業</td><td>14,976</td><td>2,638</td><td>7,062</td></tr> <tr><td>ヘルスツーリズム推進事業</td><td>3,850</td><td>700</td><td>1,750</td></tr> <tr><td>サイクリングアイランド淡路の推進</td><td>840</td><td>160</td><td>360</td></tr> <tr><td>「国生みの島」淡路島日本遺産の推進</td><td>4,800</td><td>1,200</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>計</td><td>35,120</td><td>7,000</td><td>14,120</td></tr> </table>									淡路全体	うち淡路各市	うち兵庫県	戦略的な観光推進体制の整備	10,654	2,302	3,748	大阪・関西万博等連携推進事業	14,976	2,638	7,062	ヘルスツーリズム推進事業	3,850	700	1,750	サイクリングアイランド淡路の推進	840	160	360	「国生みの島」淡路島日本遺産の推進	4,800	1,200	1,200	計	35,120	7,000	14,120
	淡路全体	うち淡路各市	うち兵庫県																																
戦略的な観光推進体制の整備	10,654	2,302	3,748																																
大阪・関西万博等連携推進事業	14,976	2,638	7,062																																
ヘルスツーリズム推進事業	3,850	700	1,750																																
サイクリングアイランド淡路の推進	840	160	360																																
「国生みの島」淡路島日本遺産の推進	4,800	1,200	1,200																																
計	35,120	7,000	14,120																																
※淡路島3市の交付対象経費7,000千円／市																																			
新型交付金の対象区分	①	先駆性のある取り組み					今後の方針																												
	②	既存事業の陥路を発見し、打開する取り組み																																	
担当部署等	○	③先駆的事例・優良事業の横展開																																	
	産業建設部	商工観光課	万博・観光戦略室	担当者：	中川	内線：	7208																												

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和6年度決算】

【地方創生拠点整備交付金 事業実施評価書】

事業名	③道の駅うずしおを核とした地域活性化拠点整備事業						新・継・拡の別	新規	補・単の別	単	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち							
事業の目的	令和7年の大阪・関西万博をはじめ、令和9年度の大鳴門橋自転車道の完成などの好機を逃すことなく、地域活性化や観光交流人口の増加を図り、域内並びに周辺地域の好循環を生むため、ひいては雇用の拡大、定住化を実現するため、道の駅うずしおを再整備する。加えて完成後にはデジタル技術等を活用し、本市及び周辺地域の魅力を来訪者に伝えることにより、当該施設を拠点に周辺施設への送客、宿泊を含む滞在時間の延伸につなげ、鳴門海峡エリアを国内旅行・インバウンドの一大観光地として、本市の地方創生の源泉とするものである。						○	III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと)	IV 子育てしやすいまち											
対象者(ターゲット)	□ ⑥地域	□ ⑦来訪者	達成状況 A 目標達成に向けて概ね順調	○道の駅リニューアル 令和5年度に引き続き、道の駅うずしおのリニューアル工事を実施した。令和5年度に遺構等が発見されたことに伴い、令和6年度以降の計画見直し等が発生したが、設計士及び施工事業者と密に協議を重ね、手戻りなくスムーズに工事を進めることができた。その結果、計画どおり令和7年秋にオープンを迎える予定です。 ○デジタルサイネージ 道の駅うずしおの施設内にデジタルサイネージ(幅6.0m×高さ1.5m)を整備するとともに、四季折々の観光スポットなどを紹介する動画コンテンツを制作する。令和6年度は、主に冬と春のコンテンツの撮影を計画どおり実施することができた。	令和6年度実績に対する主管課自己評価	施策目標	観光交流人口の拡大													
事業の概要	【概要】 道の駅をリニューアル工事として、①道の駅うずしおの躯体の建築工事及び②周辺の外構工事を実施。加えて、効果促進事業として、③デジタルサイネージの設置及び④フリーWi-Fi、⑤AIカメラ（人数カウント、人流分析など）の設置を行う。																			
KPI	KPI① 域内の宿泊者数の増加に伴う消費額の増加 KPI② 道の駅うずしおへの来訪者数 KPI③ 道の駅うずしお売上額																			
KPI① (下段実績)	現状 18,976,000千円	R 5 年度 -	R 6 年度 -	R 7 年度 2,524,000千円	R 8 年度 3,250,000千円	R 9 年度 2,250,000千円														
KPI② (下段実績)	346千人	-	-	50千人	50千人	50千人														
KPI③ (下段実績)	764,998千円	-	-	75,002千円	200,000千円	220,000千円														
KPI④ (下段実績)																				
事業期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度																			
総事業費 (一般財源)	1,000,000 千円 (500,000 千円)																			
事業費内訳	年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	淡路島南IC周辺は地域住民の生活道路であることから、オーバーツーリズムによる渋滞を心配している。休日に四国方面から淡路島に帰ってくる際、淡路島南ICで降りられないこともある。本四高速㈱は、高速道路上の渋滞情報のみを発信しているが、下道の渋滞情報についても出してもらいたい。例えば道の駅うずしおや大鳴門橋記念館などの駐車場の満空情報をリアルタイムで届けるべき。 福良地区は食事できる店舗が少なく、人手不足のなかでインバウンドを受け入れるのは難しい。飲食店の利用は地元の方が中心となっており、福良の空き家を戦略的に活用するエリアマネジメントや専門家による伴走支援が必要ではないか。福良エリアのマップについても、デジタルマップを作成して海外の人も見やすいものを作ってはどうか。 また、公衆Wi-Fiの整備も必要なでは。需要はあるが供給が追いついていない状態である。	総合戦略検証委員会による外部評価												
	事業費	-	400,000	225,000	375,000	-														
	特定財源	-	200,000	112,500	187,500	-														
取組実績及び事業費 (令和6年度事業費)	一般財源	-	200,000	112,500	187,500	-														
	○道の駅リニューアル（建築面積1,062.27m ² 、延床面積2,257.72m ² ） 請負契約額 1,543,486千円 R5事業費（前払金） 541,200千円 うち、400,000千円のみ対象事業費 R6事業費（出来高） 319,700千円 うち、220,000千円のみ対象事業費																			
	○デジタルサイネージ（幅6.0m×高さ1.5m） 委託契約額 34,980千円 R6事業費（出来高） 5,520千円 うち、5,000千円を上限に支出																			
新型交付金の対象区分	①先駆性のある取り組み ②既存事業の陥路を発見し、打開する取り組み ○③先駆的事例・優良事業の横展開						今後の方針													
担当部署等	産業建設部 商工観光課	担当者：	林	内線：	7204															

まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート【令和6年度決算】

【デジタル実装交付金 事業実施評価書】

事業名	④オンライン申請システム整備事業	新・継・拡の別	新規	補・単の別	単	総合戦略上の位置付け	基本目標	I 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち	
事業の目的	本市の行政手続については、依然書類によるアナログ的な手続が大多数を占めており、市役所窓口における対面業務や電話対応、郵送での手続等に多大な労力を必要としているほか、住民にとっても開庁時間での手続を強いられるなど様々な問題が生じており、電子申請環境を整備することにより、これらの解決を図ります。							II 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち	
対象者(ターゲット)	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦来訪者						III 魅力と味力があふれるまち(ふるさと)	
事業の概要	【概要】 行政手続のために仕事や余暇の時間を削って自治体窓口を訪れたり、手書きの申請書作成で手間がかかる住民等に対して、PCやスマートフォン等デバイスを問わず電子申請ができる仕組みを提供します。申請後のやりとりの仕組みも構築し、多くの手続きのデジタル完結を推進します。							IV 子育てしやすいまち	
KPI	KPI① 電子申請対応手続数 KPI② 電子申請による申請回答数 KPI③ 次回も電子申請を継続利用したい人の割合							○ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進	
KPI① (下段実績)	現状	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	令和6年度実績に対する主管課自己評価	達成状況 A	目標達成に向けて概ね順調
		-	140	-	-	-		導入研修に加え、事業者による毎月の操作研修を積極的に周知することで、全職員が申請フォーム作成に取り組める環境を整備できました。情報課とワーキンググループによる個別ヒアリングを実施し、オンライン化に対するフォローアップを行うとともに、共通の課題等をプロジェクトチームで協議することで、全庁的にオンライン化を推進できたと考えています。令和6年度はアンケート等の簡易な手続から開始したが、令和7年度は行政手続についても手続件数を増やしていくたいと考えています。	
KPI② (下段実績)		-	376	-	-	-			
KPI③ (下段実績)		-	4,200	-	-	-			
KPI④ (下段実績)		-	17,471	-	-	-			
事業期間	令和 6 年度	～	令和 6 年度						
総事業費 (一般財源)	1,904 千円	(952 千円)						
事業費内訳	年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度	総合戦略検証委員会による外部評価		
	事業費	-	-	1,904	2,086	2,086			
	特定財源	-	-	952	-	-			
	一般財源	-	-	952	2,086	2,086			
取組実績及び事業費 (令和6年度事業費)	LoGo フォーム利用料 282千円 LoGo フォーム利用料（電子決裁オプション含む）1,622千円							フォローアップについては情報化とワーキンググループだけと記載があるが、転入転出などめったにしない手続きについてもフォローアップをしていく必要がある。	
新型交付金の対象区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①先駆性のある取り組み <input checked="" type="checkbox"/> ②既存事業の隘路を発見し、打開する取り組み ○ ③先駆的事例・優良事業の横展開						今後の方針		
担当部署等		担当者 :		内線 :	7204				